

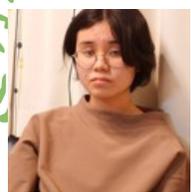
フライウェイ子ども交流会 第1期



2024年12月22日 福岡
2025年3月2日 沖縄
2025年6月22日カンファ

【主催】 Team SPOON

【協力】 ウェットランドフォーラム, 물새알, 漫湖水鳥・湿地センター, 八代野
鳥愛好会, 日本クロツラヘラサギネットワーク

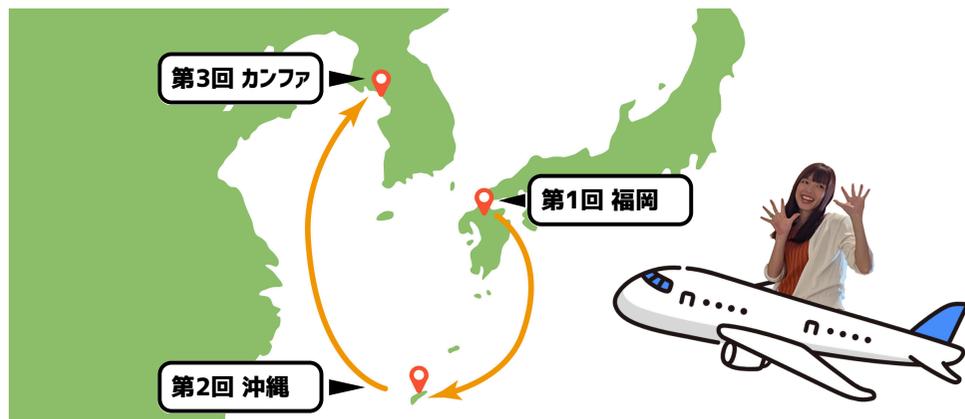


Team SPOONとは？

私たちは、2015年から、クロツラヘラサギの個体と人のつながり、人と人のつながりをつくる活動を行ってきました。SPOON会員になった方には、ファンになるクロツラヘラサギの個体を選んでもらい、その指輪を身に付けてもらうことで、クロツラヘラサギや生息地のことを大切に思っただければと思っています。さらに、SPOON会員の方には、週に1度のニュースレターをお送りしています。こうした活動を通して、「クロツラヘラサギが平和に舞う世界を人々が大切に思い、次の世代に受け継いでいく社会」を目指しています。

フライウェイ子ども交流会とは？

クロツラヘラサギが渡る地域に住む子どもたちがオンラインで一同に集まり、お互いの地域の自然や文化について学び合い、地域を超えて子どもたちが仲良くなることを目的としたイベントです。この企画は全3回にわたり、Team SPOON事務局が福岡、沖縄、韓国カンファを訪問し、それぞれをメイン会場として各地をオンラインで結びました。



交流会には、福岡、八代、沖縄、韓国カンファの子どもたちが参加し、各回で子どもたちがお互いのことやそれぞれの湿地を紹介しました。参加した子どもたちは、右に記している協力団体のもとで普段から干潟で活動している子どもたちです。

協力団体について

この企画は、以下の団体の協力のもと行われました。交流会を協力して行うことで、各地域の団体同士のネットワークをつくることも本企画のねらいとしました。

- ・ Moolseal(カンファ)
韓国の江華島で、クロツラヘラサギなどの水鳥と湿地保全に取り組む市民団体。
- ・ ウェットランドフォーラム (福岡)
和白干潟など福岡の都市型湿地の保全や環境教育に取り組む市民団体。
- ・ 漫湖湿地・水鳥センター (沖縄)
ラムサール条約登録湿地・漫湖の自然や水鳥について学べる環境学習施設。
- ・ 八代愛鳥会 (八代)
熊本県八代市で鳥類観察や保護活動を行う地域の自然愛好団体。
- ・ 日本クロツラヘラサギネットワーク
クロツラヘラサギの調査・保護・情報共有を目的に団体や個人が連携するネットワーク。

第1回

2024年12月22日
メイン会場：福岡



和白干潟の紹介 自己紹介をしよう！

参加者全員が自己紹介をし、趣味や好きな生き物ものについて話した。みんなお互いのことに興味津々で、共通の趣味や、同じ好きなものを持つ人を見つけると歓声があがったりしていました。住む地域や言語が異なってもクロツラヘラサギが好きな仲間であることを認識することができた。

第2回

2025年3月2日
メイン会場：沖縄



漫湖の紹介

お互いに質問しよう

前回の自己紹介を経て、お互いにもっと知りたいことを質問した。「クロツラヘラサギのどこが好き？」「みんなの地域の珍しい生き物は？」「何の勉強が好き？」などたくさんの質問が出た。

クロツラって何ていうの？

韓国語・日本語・琉球語でのクロツラヘラサギを覚えた

第3回

2025年6月22日
メイン会場：カンファ



カンファ干潟の紹介

クロツラヘラサギのひなに名前をつけよう！

みんなでクロツラヘラサギのひなの動画をみて、感想を共有した後、今年誕生したひなに名前をつけた。各会場ごとに名前の候補を考え、子どもたちは名前の候補と理由を発表し、お互いに意見を交わしました。決まった名前は正式に登録されます。



フライウェイのみんな、はじめまして

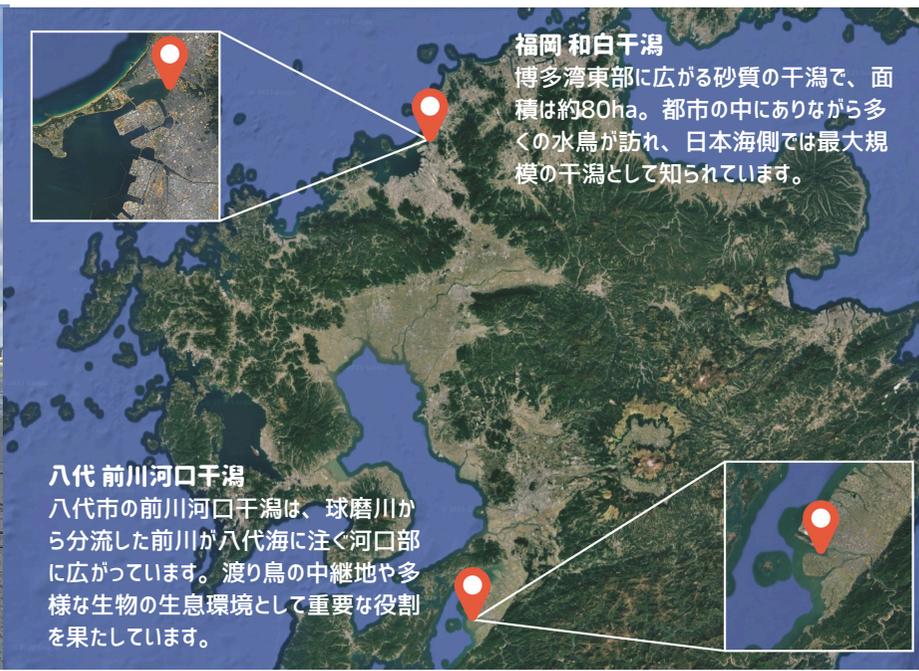


八代 前川河口干潟

八代市の前川河口干潟は、球磨川から分流した前川が八代海に注ぐ河口部に広がっています。渡り鳥の中継地や多様な生物の生息環境として重要な役割を果たしています。

福岡 和白干潟

博多湾東部に広がる砂質の干潟で、面積は約80ha。都市の中にありながら多くの水鳥が訪れ、日本海側では最大規模の干潟として知られています。



2024年12月22日

第1回

メイン会場：福岡

参加者：19名
(福岡5名、八代2名、沖縄5名、カンファ7名)

みんなに和白干潟を紹介



干潟の好きなのは、ガザミの抜け殻を拾うのが楽しいところ

春にはアサリがとれて美味しいです。



和白干潟にクロツラヘラサギを描いたよ

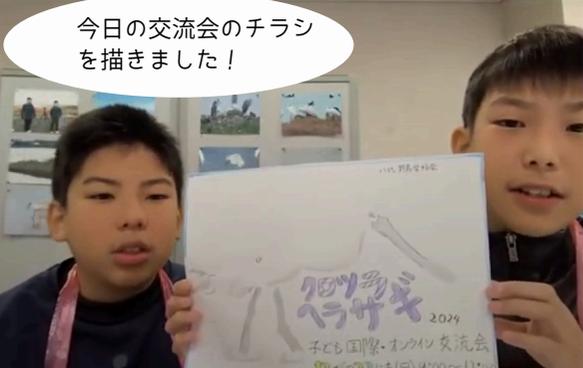


八代の前川河口干潟を紹介

干潟でトビハゼを捕まえるのも楽しいです。

今日の交流会のチラシを描きました！

自己紹介



2024年12月22日

第1回

プログラム

- ・ 和白干潟・八代の湿地紹介
- ・ 自己紹介をしよう！



一人ずつ自己紹介をしました

子どもたちは緊張しながらも、趣味や自分の好きな生きものについて話し、一生懸命自己紹介をしてくれました。中には、紹介したいものを持ってきたり、動画を用意したり、描いた絵を見せたりしてくれた子どももいます。そして、他の人が話すときにも一生懸命聞き、共通点があると喜んだり、意外なことがあれば驚いたりしていました。子どもたちの様子には、「仲良くしたい」という気持ちがあふれていました。

一人ひとりプロフィール帳を作成して交換しました

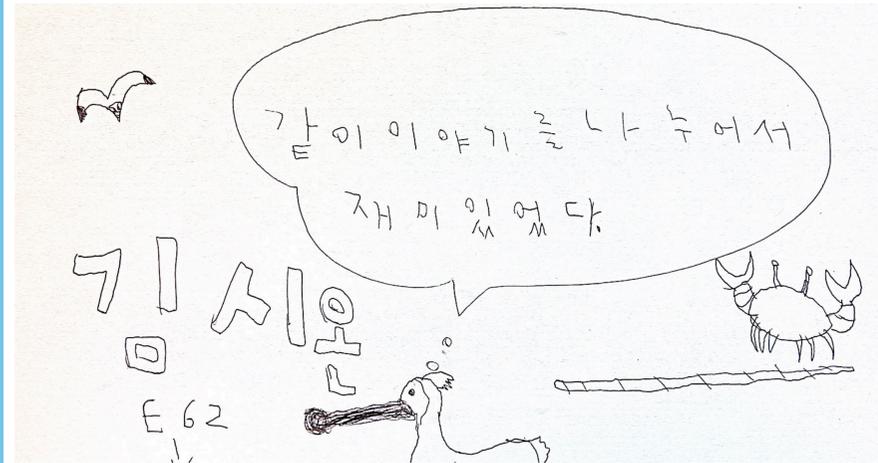


子どもたちの感想

しゅみは、みんなバラバラだけど
クワツラヘラサギが好きとか鳥が好き
という共通点があっても、今日の活動
にさんかした人たちのことをしりたいと思っ
ました。次にあうのがとても楽しみです。



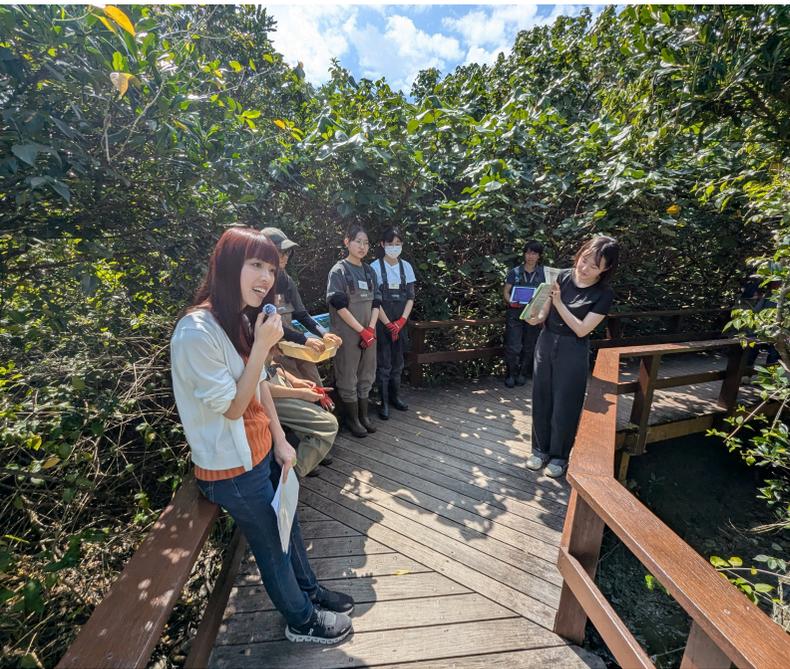
趣味はみんなバラバラだけどクワツラヘラサギが好きとか鳥が好きという共通点があ
って、もっと今日の活動に感化した人たちのことを知りたいと思いました。次に会
うのがとても楽しみです。(みひろ, 福岡)



一緒におしゃべりできて楽しかった
(Kim Zion, Gangwha)

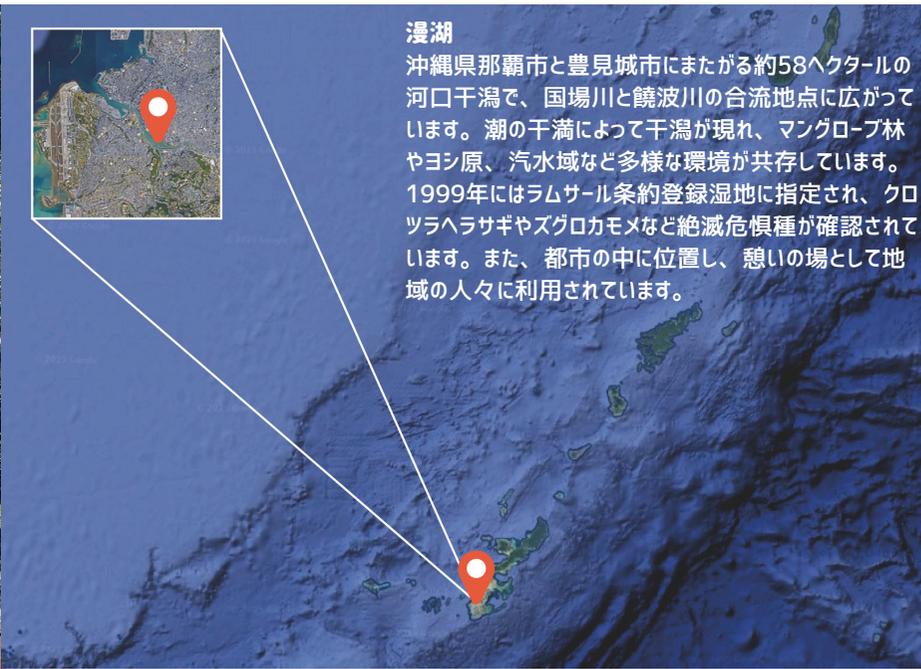
参加者全員の感想はこちら→





漫湖

沖縄県那覇市と豊見城市にまたがる約58ヘクタルの河口干潟で、国場川と饒波川の合流地点に広がっています。潮の干満によって干潟が現れ、マングローブ林やヨシ原、汽水域など多様な環境が共存しています。1999年にはラムサール条約登録湿地に指定され、クロツラヘラサギやズグロカモメなど絶滅危惧種が確認されています。また、都市の中に位置し、憩いの場として地域の人々に利用されています。



2025年3月2日

第2回

メイン会場：沖縄

参加者：18名
(福岡4名、八代2名、沖縄5名、カンファ7名)

みんなに漫湖を紹介



沖縄の楽器「三線」



カンファではさつまいとカブが有名です



八代には僕の頭くらいのサイズの柑橘「晩白柚」があります



福岡ではイチゴのあまおうが有名で、給食にも出ます



沖縄の食べ物も紹介



みんなの住んでいる地域にはどんな食べ物がある？



2025年3月2日 第2回

プログラム

- ・ 漫湖の紹介
- ・ お互いに質問しよう
- ・ クロツラって何ていうの？

お互いに質問



一人ひとりから質問を集め会場ごとに質問集をつくっておき、会場での質問をするか選び、実際に質問しました。生きものについての質問や食べ物についての質問など、さまざまな質問が出ました。交流会の時間内で聞けなかった質問は、後日子どもたちに回答してもらい、回答を参加者みんなに送りました。

クロツラヘラサギをなんと呼ぶ？

それぞれの地域でクロツラヘラサギが何と呼ばれているかを教え合いました。カンファでは「ジョーセ」、福岡と八代では「クロツラヘラサギ」、沖縄では「クロイビラサージ」と呼ぶこととその意味を教え合い、みんなで発音してみました。

各地の「クロツラヘラサギ」の名前の意味

- ・ カンファ「ジョーセ」：くちばしをフリフリする様子
- ・ 福岡・八代「クロツラヘラサギ」：黒い顔のヘラサギ
- ・ 沖縄「クロイビラサージ」：黒い大しゃもじのサギ



子どもたちからの質問



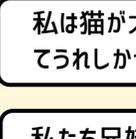
ぼくはツバサゴカイを初めて見た時、見た目にびっくりしました。みなさんのところにも見た目の面白い生き物はいますか？
(Fukuoka)



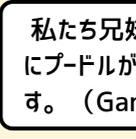
ツバサゴカイを見たことがなくて、検索してみたんですが、とても不思議な格好をしていますね。寿命が300年以上だということもすごいですね。私はホタルの幼虫が毒のある昆虫のように見えてびっくりしました！
(Gangwha)



皆は、犬派？猫派？私は猫派です。
(Yatsushiro)



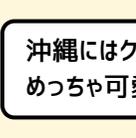
私は猫が大好きで、いま3匹飼っています。触り心地がやわらかくてうれしかったです。
(Gangwha)



私たち兄妹は犬のほうが好きです。父方のおばの家にプードルがいるけど、一緒に遊ぶのが楽しかったです。
(Gangwha)



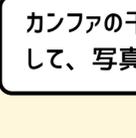
私は ニホンヤモリを飼っています。前、沖縄に行ったときにヤモリをレストランの壁で見つけたことがあります。みんなの地域に生息している野生のヤモリがいたら教えてください。
(Gangwha)



沖縄にはクロイワトカゲモドキという固有種のヤモリが生息してます。めっちゃ可愛いです。
(Okinawa)



アラムシロガイはいどのくらいいますか？
(Fukuoka)



カンファの干潟にもいます。次干潟に行ったら、もっと詳しく観察して、写真を撮ってみます。
(Gangwha)





2025年6月22日

第3回

メイン会場：カンファ

参加者：19名

(福岡6名、八代2名、沖縄4名、
カンファ7名)

クロツラが生まれるカクシウムから中継



船の上から中継



動画でもカンファ干潟を紹介



田んぼにクロツラヘラサギがいる
姿が映ると他の会場からは驚きの
声があがりました。



久しぶりの交流だったけど
みんな楽しくクワツラハラサギの名前を
考えることができた。
これからもう、しよにがはばらう。



高島晴之介

クワツラハラサギを通じて、韓国、ハ代、沖縄
のみんなと話けり、名前を決めたりして
楽しがたです。
みんな良い名前を考えていてすごーいと思ひまは。
3回という少ない回数だったけど、
仲良くなれて良がたです。クワツラハラサギ
により、仲良くなれたので、これからも保全活動
を通じて干潟の環境を末々いこう！

Yoshika

たのしかたです！
前回の交流で、わんたでは、クワツラハラサギの
ゆるときいていたので、実際に動画とみるこちかでき、
です！また、ニックネームをつける体験もできて、
この機会かなければ、つながるこちのない人と開かれ、
です。いつか、また会おう！！

みんなが選んだ名前を
クワツラハラサギのこちから
クワツラハラサギの名前を決めたりして
1日1回1代は福の神の祝いの日は感想もいあふまは



他のオセチの干潟の生物や高がたで楽しがたです
三回行、たけに、みんなのこちかかたけわがりました
福岡の子供たちと交流したことで、福岡がたで
命は、しよ、さき、か、わ、に、な、り、ま、し、た。
知んて成長しよはこちかたけまは。



山崎健真



界のすたは、
クワツラハラサギを
おはこ見れよがた。

この前和自干潟に行きた、
色鳥が、見れよがた。
物に、沖縄で、おはこ見れよがた、
うれい



Yoshika

たのしかたです！
前回の交流で、わんたでは、クワツラハラサギの
ゆるときいていたので、実際に動画とみるこちかでき、
です！また、ニックネームをつける体験もできて、
この機会かなければ、つながるこちのない人と開かれ、
です。いつか、また会おう！！

沖縄ではクワツラハラサギが繁殖してはる見んない、
と、こちかたけまは、
生えは、何の、こちかたけまは、
こちかたけまは、クワツラハラサギ、
何、こちかたけまは、クワツラハラサギ、
何、こちかたけまは、クワツラハラサギ、

3回、交流して、楽しがた、
こちかたけまは、クワツラハラサギ、
こちかたけまは、クワツラハラサギ、



澄湖：豊谷 俊月

今日は久しぶりにみんなと会えてうれし
かったです。ハ代の二人ともじっさいに
会って少しの時間だったけど少し仲良
なれたと思います。カンファのみんなと
沖縄のみんなとは、じっさいに会えなが、
たけどいつか会ったらクワツラハラサギのこととか
いろいろはなそうね。

mimi

こちかたけまは、
クワツラハラサギ、
こちかたけまは、クワツラハラサギ、
こちかたけまは、クワツラハラサギ、

クワツラハラサギ、
こちかたけまは、クワツラハラサギ、
こちかたけまは、クワツラハラサギ、

かんた

こちかたけまは、
こちかたけまは、クワツラハラサギ、
こちかたけまは、クワツラハラサギ、



みち

感想はこちら



まとめ

フライウェイ子ども交流会を通して以下の成果が得られた。

- それぞれの湿地に根付いた感覚を持つ子どもたちが、フライウェイ上で個人と個人としてつながり、友だちになることができる
 - クロツラヘラサギのフライウェイを実感し、フライウェイ上に居る友だちが住む地域のことに興味を持つようになる。
 - 他の地域との違いや共通点を知ることで、自分が住む地域に対しても関心を持つようになる。
- 渡り鳥を通して、身近な自然にも遠くの自然にも共感するとともに、自分自身もその自然のつながりの中に居る一人であり、影響を与えることができるのだと認識する

協力団体からのメッセージ

MOOLSEAL

日韓の子どもたちが一緒に命名した3羽のクロツラヘラサギが、八代、福岡、沖縄に飛んでいくことを願っています。

漫湖湿地・水鳥センター(平良さん)

こどもたちが最後までとても楽しそうで、このような交流会に参加する機会を頂けたことに改めて感謝いたします。

他の地域のクロツラヘラサギの様子や、漫湖では見られないヒナの姿を見ることができて、とても刺激を受けているようでした。

また、こどもたちがカンファや和臼、八代の仲間たちに向けて自分から絵を描いたり、韓国語の挨拶を調べて書いたりしている姿が印象的でした。全3回の交流会を通して、国や地域、言語や文化が異なる相手に思いを馳せ、関心を持ち、彼らの世界が少しずつ広がっていくのを感じました。いつか直接顔を合わせ、言葉を交わしてほしいなと思っています。

